



「ユューユワールド平出総合物流センター」の外観

ユューユワールド

宇都宮に初の自社保有施設

東南ア初の現法、タイに検討

貿易と物流・総合人材サービスのパートナーを掲げるユューユワールド(本社・宇都宮市、小川恒夫代表取締役)は、初の自社保有施設「ユューユワールド平出総合物流センター」(宇都宮市)を開設した。18日、現地での開所式を行った。保税倉庫を完備し、AEO特定保税承認者の認定を受け、回廊率の高い輸出入貨物の取り扱いに特化して運用する予定だ。一方、海外展開として東南アジアで同社の現地法人をタイに設立する計画も進める。物流に加え、介護関係の事業展開も検討する。



左から小川拓矢専務取締役、小川川恒夫代表取締役、星野啓子常務取締役

新物流センターは宇都宮市下平出町方内600-1に開設した。県道同室線に接道し、国道新4号線から100m、東北自動車道(宇都宮インターチェンジ(IC))から15m、北関東自動車道、上三川ICから10m、J.R宇都宮駅から8m、周辺の工業団地からの距離は、平出工業団地から3m、清原工業団地から6m、芳賀工業団地から7m、真岡工業団地から14mに位置する。

投資額は約3億円。建物面積は1604平方m。そのうち、定置倉庫部分が179平方m。同社は2010年3月、AEO特定保税承認者の認定を受け、同月

率の高い貨物に対応する。平出工業団地内の本社倉庫などは、時間がかかる貨物を手扱い、差別化を図る。また、定置庫を設置し、一定の温度管理が求められる半導体関連貨物や農産物などに対応していく。

小川恒夫代表取締役は「物流機能の充実を図るため、自社保有施設を以前から考えている中、最適な物件に巡り合った。この1年ほどの動きを、物産近代化にもつなげていきたい」と語る。また、小川拓矢専務取締役は「北関東の新たな物流基地として、広

同社宇都宮国際貨物ターミナル(宇都宮市、UIC)の立ち上げ発足した小川代表取締役が独立して2014年7月日に設立した社。資本金は500万円。「貿易と物流・人材・介護の何でも屋」を標榜し、保税・通関・物流業務や貿易業務、また、関連法人・材探通・業務請負なども展開している。

海外展開では、大連、香港に現地法人を設け、同社が、東南アジア初の現地法人「ユューユワールド・タイランド」(仮称)をバンコクに開設する計画もある。背景には、現地で、の北関東地域顧客の事業活動



定置庫(写真手前左)も設置した

に本田総合物流センターを開設している。新物流センターでも認定申請し、輸出入貨物を中心に取り扱う方針だ。内陸部にある保税倉庫の特長を生かし、回廊

の活発化や介護関連での事業展開を促した。地元では、足利ホルディングスや英城の常盤銀行が統合して昨年10月、めざろイナシヤグループが発足したが、取引銀行である足利銀行が2月2日、

バンコク駐在員事務所を開設する予定。バンコクでは、栃木、群馬、埼玉の顧客も多々集まっており、事業も多岐化している。足利銀行の駐在員事務所は、同社への進出希望の企業サポートや現地情報収集などを手掛ける予定であり、ユューユワールドも現法設立で歩調を合わせ、物流面のサポートなどを手掛ける方針だ。また、日本でも現法提供の介護サービスの現法提供なども視野に入れる。小川代表取締役は「現地でも高規格が進み、介護ニーズが出ていると見ている。現地でのサービス提供に加え、人手不足である日本でのタイスタッフの活躍も期待し、考えていく予定だ」。